

小学校高学年や中学生の居場所を探しています



学校から、子どもの歩く速さで5分程度の場所で発達障がいや事情により児童センターや自宅で過ごせない子や課題のある子の勉強や放課後過ごせる居場所を探しています。

また、不登校のお子さんたちのサポートも将来行えたらと思っています。一緒に考えていただける仲間も同時に募集いたします。

まずは、実施するのは数年後の予定です。一緒に考えてもいいよという方がいらっしやいましたら、たんとキッズあおき 飯島までご連絡ください。

コラム ～ 障がい者（児）に未来はないのか？ ～

私は、この仕事に関わって20年になります。昔は、今で言うところのIT関係の仕事や、アルバイトでゲーム制作会社で働いていました。

ある日、今一緒に仕事している高校の同級生がこの仕事を始めるという事で、ボランティアで関わり始めたのがキッカケです。その当時は「障がい」というものを全く知らず、よくよく考えたら小学校のころ遊んでいた子がダウン症で、ある日突然居なくなってしまったなあとか、自閉症の先輩が居たけど、ただただ変なやつだっと思っていただけの思い出の程度で、特に知識などはありませんでした。

そこから、友達の仕事をボランティアで手伝いながら、少しずつわかってきたことは、障がいを持った人が生きていくにはかなり大変な地域だということでした。

その時は、将来この人たちはどうやって生きて行くのだろうか？インクルーシブってなに？そんな状態でした。そこから20年が経ち、当時に比べればかなり地域で障がいをお持ちの方が生活していく環境は改善されたと思います。とはいえ、まだまだ満足に生活できる状況ではないのも事実です。

ただ、ここ数年実は大きな今後の展開でチャンスが訪れています。実は、新型コロナウイルスのおかげで大きく日本の仕事に対する向かい方が変わりました。そして、もう一つは少子化による影響もチャンスかもしれません。それはどういうことか。実は日本人は、昔から勤勉な人種として世界でも有名でした。それは今でも変わりません。その中で大きな波が2つ。まずは少子化です。日本にしてみれば、少子化はかなり深刻な問題です。これから先は日本の人口はどんどん減る傾向にあります。その中で、課題になってきているのが農業と伝統工芸の継承者の問題です。そして、もう一つは新型コロナウイルスによる外出制限から発展した仕事のあり方です。これがどんな影響があるのか？と言われると、実は今福祉は、国をあげて農福連携という仕組みが動いています。これは障がいをお持ちの方の働く場として農業が推奨されているのです。友達の事業所では、わざわざ畑を継ぐ人が居ないのでなんとかしてほしいという相談から、作業として開始して大成功をしています。

また、先日はお米農家で働くことで次の担い手を育てる取り組みも始まりました。今、農業で働く場所はどんどん増えています。そして、もう一つ。新型コロナの影響で変わった在宅ワークの変化です。

今までは会社に出社するのが当たり前で、人と関わるのが苦手な人や通勤に困難がある方は働くことすら難しかったのが、今は在宅ワークが可能になりました。それ以外でも、自宅で仕事ができる環境が増えています。仕事は嫌いじゃないけど、人間関係で働けなくなってしまう人がとても多い中、この体制はとても障がいをお持ちの方にとってはプラスな対応でした。これから先は、きっと障がいなど関係なくその人に合った働き方が提案できるようになっていくと思います。今は、期待と楽しみしかありません。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんとキッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんとキッズあおき (NPO法人たんと。)

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たんと



あなたの知らない発達障がいの世界

2023.05



発達障がいって一体、何のことを言うのでしょうか？簡単に評点すれば、それは「少数派」です。

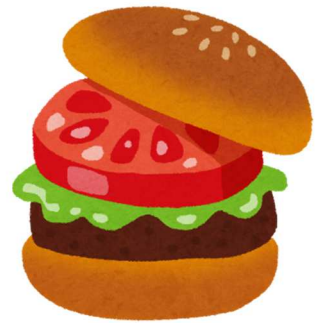
なにそれ？どういうこと？と思うでしょう。でも、それが事実なのです。

「障がい」というのは、ただ単に少数派の方たちの事を指します。ちょっと多くの人より考え方が違う…とか、理解の仕方が違う…感じ方が違う…など。イメージだけだと、めんどくさかったり理解しづらいなんて事を思うかもしれません。

でも、ちょっと想像してみてください。

みなさんが好きな食べ物を想像してください。ラーメン、お寿司、ハンバーガーなどなど。

では質問です。みなさんが、例えばハンバーガーを食べに行くとしたら、その時、地域にとっても「美味しい」と有名なハンバーガーショップと、全国チェーンのハンバーガーショップ。久しぶりに、ちょっと臨時収入が入ったので奮発して食べに行きたいと思ったらどっちに行きますか？



全員ではないですが、何人かは地域の有名なハンバーガーを食べたいと思う人がいると思います。

ではその人に質問です。そのお店をなぜ選びましたか？

「こだわりのハンバーガーが食べられるから」「そこでしか食べられないから」などの理由があるでしょう。

それって、全国チェーンのお店と比べて一言で表すと「こだわり」という表現が出てくるでしょう。

そう、そのお店でしか味わえない特別の味が「こだわり」です。

みなさんは、食事のことは「こだわり」として、そしてそれはいい意味として受け入れてくれています。

「あそこのラーメン屋のこだわりがすごい！！」

じゃあ、障がいはどうですか？一人ひとり違う、みんなと違うから「困る」のでしょうか？

何が違うんでしょうね。実は辞書を調べると「こだわり」という言葉はいい意味ではない事があります。

一番、みなさんが混乱しているのは、個性は良いただ「人と違う事をするのが困る」「言ったことが伝わらない」そんなところでしょうか？他にもあるとは思いますが、ただ困ってしまう状況に全て共通しているのは **自分（私）の生活（リズム）に影響が出る** からですね。

じゃあ、関わらなければいいとか、無視すればいい ということではありません。

去年は、障がいの内容であったり状態などをお伝えしてきました。

今年度は、発達障がい 特に私が一番専門として関わっている「自閉スペクトラム症」から「強度行動障害」と呼ばれてしまっている行動に困った人たちがなぜそうになってしまうのか？というところや、彼らを取り巻く環境、将来の展望などに焦点を置いて発信していこうと思います。



みなさんが、かれらの **こだわり** が理解できて、良い関わりができたらいいなと思っています。

過去の記事は、NPO 法人たんと のホームページの「たんとキッズあおき」のページでご覧になることができます。

